

ヘルプ



Trimble Access™



バージョン 2017.00
改訂 A
2017 年 3 月

法的情報

Trimble Inc.

www.trimble.com

著作権と商標

© 2009-2017 年, Trimble Navigation Limited. 著作権所有。

Trimble、地球儀と三角形のロゴ、Autolock、CenterPoint、 FOCUS、 Geodimeter、 GPS Pathfinder、 GPS Total Station、 OmniSTAR、 RealWorks、 Spectra Precision、 Terramodel、 Tracklight、 およびxFillは、米国登録商標特許庁に、そしてその他の国々で登録されたTrimble Inc. の登録商標です。

Access、 FastStatic、 FineLockGX、 RoadLink、 TerraFlex、 Trimble Business Center、 Trimble Geomatics Office、 Trimble Link、 Trimble RTX Trimble Survey Controller、 Trimble Total Control、 TRIMMARK、 VISION、 VRS、 VRS Now、 VXおよびZephyrは、 Trimble Inc. の商標です。

Microsoft、 ActiveSync、 Excel、 Internet Explorer、 Windows、 Windows Mobile、 Windows VistaおよびWordは、米国および/またはその他諸国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

Bluetooth という言葉のマークやロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有しており、Trimble Inc. は許可を受けてそれを使用しています。

Wi-FiはWi-Fi Allianceの登録商標です。

その他の商標はそれぞれの所有者に帰属します。

本ソフトウェアの一部はIndependent JPEG Group の製品に基づいており、RSA Data Security, IncのMD5 Message-Digest Algorithmを使用しています。

目次

1	はじめに	4
	Trimble Accessの概要	4
	サポートされているコントローラ	8
	ソフトウェアのインストールおよび更新	8
	ソフトウェアのアクチベーション	9
2	Trimble Access	11
	Trimble Access の特長	11
	現場でTrimble Accessにログインする	13
	現場でアプリケーションやサービスを切り替える	16
	アイコン配置を変える	17
	全画面	17
3	測定の設定	18
	言語	18
4	インターネット設定	19
	インターネット・セットアップ・ウィザードを使用した接続の設定	19
5	ファイル転送	25
	コントローラとオフィスコンピュータ間のファイル転送	25

はじめに

Trimble® Access™ ソフトウェア バージョン2017.00のヘルプによろこそ。

このヘルプの拡張や更新に関する情報は:

- Trimble Accessのリリースノートをご参照ください。
- Trimble Access Applicationsウェブサイトをご参照してください (<http://apps.trimbleaccess.com/help>)。
- 最寄のTrimble販売代理店にお問合せください。

Trimble Accessの概要

Trimble Access ソフトウェアはフィールドで活用できる様々な測量ツール、およびオフィスやフィールドで使用するウェブベースのサービスを展開しています。こうしたプログラムはコントローラやオフィスコンピュータ、Trimbleのサービスなどにインストールされています。

以下の表はシステムの各構成要素の機能およびインストール先を示しています。

アプリケーション	機能	インストール先...	標準 / オプション
Trimble Installation Manager	Windows Mobile Device Centerのサービスを通じてアプリケーションの最新の変更事項をコントローラにインストールおよび更新します。	オフィスコンピュータ	標準
Trimble Access メニュー	<ul style="list-style-type: none"> • コントローラのアプリケーションとサービスを開始します。 • コントローラで使用されているアプリケーションおよびサービスを切り替えます。 • システム通知警告を作成します。 • Trimble Connected Communityにログインし、AccessSyncを含めたウェブサービスにアクセスするのに使用します。 	コントローラ	標準
一般測量	光学およびGNSSセンサを使用した普通の測量作業向け	コント	標準

アプリケーション	機能	インストール先...	標準/オプション
	の一般的な測量アプリケーションです。	ローラ	
インターネット設定	携帯電話からインターネットへの接続のセットアップを簡易化するウィザードです。	コントロールローラ	標準
設定	一箇所でシステム全体の設定を定義します 単位、接続設定（測量スタイルおよび無線を含む）、特徴ライブラリの設定、およびその他の設定全般を行ないます	コントロールローラ	標準
道路	道路ジョブの定義、測量、レポートを専門的に行なうアプリケーションです。	コントロールローラ	オプション
トンネル	トンネルジョブの定義、測量、レポートを専門的に行なうトンネルアプリケーションです。	コントロールローラ	オプション
採掘鉞	掘削機の位置決めおよび作業レポートを行なう採掘坑専門アプリケーションです。	コントロールローラ	オプション
パイプライン	専門的なパイプライン用アプリケーションで、件数のチェックや、継ぎ手のマッピング、パイプライン出来形の測量、パイプラインジョブに関する報告に使用します。	コントロールローラ	オプション
電線	専門的な電線用アプリケーションで、ケーブルに照準を合わせる必要なく、電線のたるみの測定や見積もりを行ったり、電柱および電線上のポイントを記録したりできます。	コントロールローラ	オプション
モニター中	モニタリング作業における定義、モニタリング、レポートを行なう専門アプリケーションです。	コントロールローラ	オプション
陸上地震探査	陸上地震探査に特化したアプリケーションで計画前定義を杭打ちします。	コントロールローラ	オプションナル
AccessSync	フィールドとオフィス間でインターネット接続を介したTrimble Accessソフトウェアファイルの無線送受信を可能にするサービスです。 オフィスからフィールドにファイルを転送する際には、フィールドのコントローラに必要なバージョンにファイルを自動変換します。	コントロールローラ	オプション
SX10 ログ	接続されたTrimble SX10 スキャンターステーション からエラーログをダウンロードし、Trimble販売代理店に分析のため	コントローラ	標準

アプリケーション	機能	インストール先...	標準/オプション
	にエラーログを送信できるようにするためのユーティリティ。		
GNSS予想	特定の場所における衛星の可用性や電離層の状態にもとづいてGNSS測定の適切性を予想するプランニングツールです。	コントローラ	オプション
Trimble Connected Community	<ul style="list-style-type: none"> Trimbleが管理運営するウェブベースのツールで、各機関がインターネットを使用して情報を素早く簡単に共有することを可能にします。 Trimble Access ソフトウェア内でプロジェクトの作成、およびハードウェアとサービスの管理を行なうことができます。 AccessSyncサービスによってフィールドとの間で送受信されるファイルの送信先となります。 	Trimbleがホストとつながっているサーバ	オプション
Trimble Connected Community Explorer (TCCE)	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Windows Vista、Window 7、Windows 8オペレーティングシステムへのプラグイン機能で、Trimble Connected Communityに含まれる組織ファイルやフォルダ構成がローカルユーザのコンピュータのマイコンピュータやWindowsエクスプローラからアクセスできるようにします。TCCEによって、Windowsと同様の方法でファイルやフォルダを管理することができ、内が非常にナビゲーションしやすくなりました。 Microsoft Windows Vista、Windows 7、Windows 8Xオペレーティングシステムへのプラグイン機能で、Trimble Connected Communityに含まれる組織ファイルやフォルダ構成がローカルユーザのコンピュータのマイコンピュータやWindowsエクスプローラからアクセスできるようにします。TCCEによって、Windowsと同様の方法でファイルやフォルダを管理することができ、Trimble Connected Community内が非常にナビゲーションしやすくなりました。 ローカルコンピュータ上で選択したフォルダとTrimble Connected Community上で選択したファイルスペースまたはフォルダを自動同期化することを可能にします。TCCEは最大で10組のフォルダを自動同期化することができます。 	オフィスコンピュータ	オプション
航空写真	Trimble UX5航空写真移動局の操作に使用する専門アプリケーションです。Trimble Tabletコントローラにインストールして使用します。	コントローラ	オプションナル

アプリケーション	機能	インストール先...	標準/オプション
機器マネージャ	Equipment Manager Agentソフトウェアは、Trimble AllTrak™ Cloud（および以前のTrimble InSphere Equipment Manager）と連動し、企業の現場機器の中央管理を可能にします。さらに詳しい情報につきましては www.trimble.com/Geospatial/AllTrak.aspx をご参照下さい。	コントローラ	オプション
TerraFlex™	Trimble TerraFlexのモバイルコンポーネントは、クラウド契約型のモバイル地理空間データ収集ソリューションです。サポートとさらに詳しい情報につきましては www.trimbleinsphere.com/insphere/terraflex-data-collection をご参照下さい。	コントローラ	オプション
Trimble 4D Control Siteのセットアップ	Trimble Accessが動作中のTrimble現場コントローラを使用し、Trimble 4D Control用にトータルステーションの現場セットアップを作成したり、修正したりできます。	コントローラ	オプション
Trimble Katastermodul Deutschland	土地測量の現場作業用に強力なツールを提供します。	コントローラ	オプション
Utility Survey	Trimble Accessからリアルタイムで地下の施設の3次元位置を検出および収集することができます。	コントローラ	オプション
Level Me	Trimble Sシリーズトータルステーションを使用した正確な三角水準測量と、観測・計算・補正によって高度を割り出すことができる専門アプリケーションです。	コントローラ	オプション
BathySurvey	多様なエコサウンダーから深さをGNSS位置情報に追加することができる専門アプリケーションです。	コントローラ	オプション
BestFit	ライン、平面、円、球、円筒などの詳細に定義された3Dジオメトリック要素のための最適な解を算出する専門アプリケーションです。	コントローラ	オプション
RM3D Output	鉄道線路の設計、モニタリング、データ収集、配置専門のアプリケーションです。	コントローラ	オプション
ARCH. e	考古学的発掘時にデータの記録と管理を行うコンピュータツールセットです。	コントローラ	オプション
Athletics	陸上大会の結果測定に使用する専門アプリケーションです。	コントローラ	オプション

アプリケーション	機能	インストール先...	標準/オプション
Access Marketplace	Trimble Accessで利用できるアプリケーションを閲覧することができます。Trimbleのアプリケーション、パートナーアプリケーション、地域限定アプリケーションなどがあります。地域限定アプリケーションは非販売品ですが、Trimble Accessソフトウェア開発ツールキットの性能を示す画期的なソリューションです。例としては「China Electricity」や「China Survey Toolkit」などがあります。	コントローラ	標準

メモ

- コントローラ内のソフトウェアのアップグレードは、かならずオフィスコンピュータに接続されたWindows Mobile Device Centerを通じて行なう必要があります。
- フィールドコントローラのサービスはTrimbleがホストするサーバへのインターネット接続を通じてデータを送受信します。

サポートされているコントローラ

Trimble Accessソフトウェアは以下のコントローラ上で実行されます。

- Trimble TSC3コントローラ
- Trimbleタブレット
- Trimble CUコントローラ
- Trimble Geo7Xハンドヘルド
- Trimble GeoXRハンドヘルド
- Trimble Slateコントローラ
- Trimble S3コントローラ (Trimble S3トータルステーションに内蔵)
- Trimble M3コントローラ (Trimble M3トータルステーションに内蔵)

メモ - 他社製Windows PCをご使用の場合は、Trimble Accessの説明書をお読みになる際に必ずTrimble Tabletに関する注記や節をお読み下さい。

さらに詳しい情報につきましては、www.trimble.com/Survey/Trimble-Access-IS.aspxにアクセスし、「Trimble Access for Windows Minimum Requirements」をダウンロードして下さい。

ソフトウェアのインストールおよび更新

Trimble Installation Managerをオンラインで使用してTrimble Access ソフトウェアをインストールできます。または、Trimble Installation Manager と全てのアプリケーション

ファイル、およびライセンスを受信機にダウンロードしておけば、後日インターネット接続がない場合でもインストールすることができます。

Trimble Installation Managerオンラインでの使用

Trimble Installation Managerを使用してコントローラ上のすべてのTrimble Accessアプリケーションにソフトウェアおよび更新をインストールします。

Trimble Installation Managerのオフラインでの使用

Trimble Installation Managerと全てのアプリケーションファイル、およびライセンスをダウンロードします。

のオフラインバージョンを作成した場合：

- すべてのコントローラのライセンスがオフライン・インストールに含まれるように、コントローラのシリアル番号をリストアップして下さい。ライセンスをダウンロードしていないコントローラはオフラインで更新できません。
- オフラインインストールが利用できるようTrimble Accessソフトウェアのバージョンを選択することができます。これにより、「Licence only (ライセンスのみ)」オプションが使用可能になり、追加のライセンスをダウンロードすることができます。既存のコントローラに新しいライセンスを購入する場合、またはオフラインインストールにコントローラを追加する場合には、必ず「Licence only」オプションを使用してライセンスをダウンロードをして下さい。

詳しくは、以下を参照してください：。

ソフトウェアのアンインストール

コントローラ更新時には、コントローラ上にインストール済みのもをすべてTrimble Installation Managerが自動的に再インストールします。Trimble Installation Managerの機能上、インストール済みのアプリケーションや言語を非選択にはできません。

お使いのコンピュータにインストール済みのTrimble Accessソフトウェアアプリケーションを、何らかの理由でアンインストールしたい場合、コントローラ上の **追加／削除プログラム** 機能を使用します。

メモ - コントローラに対するアプリケーション使用ライセンスが有効のままになっているため、初期設定では、次にTrimble Installation Managerを実行する際、アプリケーションのチェックボックスが選択されています。削除したアプリケーションが再インストールされないようにするには、インストール をクリックする前に、アプリケーション名に対応するチェックボックスを非選択にする必要があります。

同様に、不要になったTrimble Accessの言語バージョンを削除するには、コントローラの **追加／削除プログラム** 機能を利用して削除します。その言語はインストールされていない状態となり、次にTrimble Installation Managerを実行する際、その言語に対応するチェックボックスは選択されていません。

ソフトウェアのアクチベーション

Trimble Accessアプリケーションをインストールし、操作するには、ライセンスが必要です。

Trimble Access ソフトウェアの追加コンポーネントを購入、または既存ライセンスを延長した場合、ライセンスファイルはTrimbleのホストサーバで更新されます。新しいライセンスファイルをダウンロードするには、以下のいずれかを実行します：

- Windows Mobile Device Centerを通してコントローラをオフィスコンピュータに接続した後、Trimble Installation Managerを実行します。これにより、ライセンスおよびソフトウェアが更新されます。
- インターネットが接続された状態で、Trimble Accessタスクバーか、現在使用しているアプリケーションのタスクバーにあるTrimbleボタンをタップして、ドロップダウンメニューから「製品情報」を選択します。「ライセンス」ボタンをタップしてダウンロードを開始します。

情報

コントローラにインストールされたすべてのTrimble Accessアプリケーションとそのバージョン番号、ライセンス情報、使用許諾契約書（EULA）のリストを表示するには、Trimble Accessタスクバーまたは現在使用しているアプリケーションのタスクバーにあるTrimbleボタンをタップして、ドロップダウンメニューから「製品情報」を選択します。

「情報」ダイアログには、「**ライセンス有効期限日**」、および「**ソフトウェア保証期限日**」の2つの期日が載っています。

ライセンス有効期限日

この日は、ソフトウェアやサービスを使用できる期限を表します。無期限ライセンスには有効期限日はありません。期限付きのライセンスは、コントローラに搭載されているライセンスの現在の有効期限日を表示します。しかし、有効期限付きのライセンスも、自動的に延長されるので、表示されている日にちは、現在ダウンロードされているライセンスの有効期限です。契約が維持されていれば、Trimble Installation Managerソフトウェアを実行するか、またはコントローラがインターネットに接続されている場合は、「情報」ダイアログから「ライセンス」ボタンをタップするだけで、ライセンスを更新できます。

ソフトウェア保証有効期限日

ソフトウェア保証有効期限日フィールドには、保証の期限が切れる日、または「契約中」と表示されます。「契約中」は、有効期限付きのライセンスも契約が維持されている限りは期限切れとならないことを表しています。ソフトウェア保証が切れても、ソフトウェアは使用し続けることができ、小規模な更新もすることができます。新しい改訂版のソフトウェアには有効な保証が必要です。

ハードウェアの延長保証や、ソフトウェアメンテナンスについての情報は、trimble_supportsales@trimble.com（英語）までお問い合わせ下さい。

Trimble Access

Trimble Access の特長

Trimble Access メニュー を使用して、Trimble Access ソフトウェア内にあるそれぞれのアプリケーションとサービスの間でナビゲーションを開始します。

Trimble Access ソフトウェアを起動するために、以下のいずれかを実行します：

Geo7X/GeoXRコントローラ：

- 「開始」メニューからTrimble Accessをタップします。

TSC3コントローラ：

- Trimbleハードキーを押します。
- 「開始」メニューからTrimble Accessをタップします。

Trimble CUコントローラ：

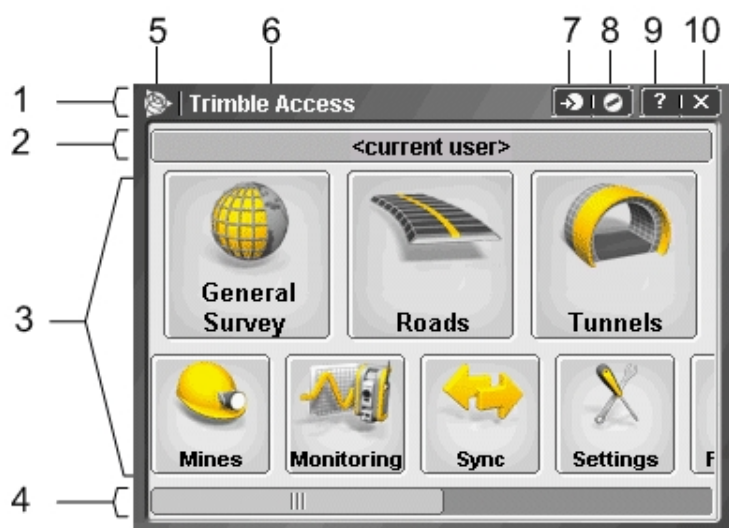
- 「起動 / プログラム」をタップします。

Trimble tablet：







- デスクトップから、Trimble Accessショートカットアイコンをタップします。

メモ - Trimble Accessを開始するたびに使用許諾書が表示されますが、これを表示しないようにするには「スタートアップの表示」フィールドのチェックボックスのチェックを外します。

以下の図と表は、キーの特長とソフトウェアの機能を表しています：



項目	特徴	機能
1	Trimble Access タスクバー	Trimble Access ソフトウェア 内の全ての画面に表示され、アプリケーションやサービス間を自由に切り替えることができる他、システム情報も表示します。
2	ログイン・ボタン	現在誰がシステムにログインしているかを表示します。誰もログインしていない場合には、「ここをタップしてログイン」と表示されます。その他にこのボタンは、コントローラ上で全てのデータが保存されるフォルダ名を表示します。 ログイン・ボタンを押してログインまたはユーザー切替を行いません。
3	アプリケーション・ボタン	タップして、アプリケーションの起動または切替を行います。
4	スクロールバー	スクロールするとTrimble Accessアプリケーションを参照できます。
5	Trimbleボタン	Trimble Access メニューから Trimbleボタンをタップして次のことが行なえます： <ul style="list-style-type: none"> インストールされている Trimble Access アプリケーションの情報（バージョンやライセンスを含む）を表示させます。 アイコン配置を変える 全画面モード内でTrimble Accessアプリケーションを実行します。 <p>その他全てのアプリケーションについては、Trimbleボタンをタップして Trimble Access メニュー に戻り、他のアプリケーションに切り替えます。</p>
6	タイトル	現在のアプリケーション情報、もしくは実行されているサービス、または表示されている画面名のいずれかが表示されます。

項目	特徴	機能
7	インターネット接続ボタン	<p>インターネット接続の状態を表示します：</p> <p> は、インターネットに接続されていることを示します。</p> <p> は、インターネットに接続されていないことを示します。</p>
8	警報ボタン	<p>ユーザにシステム情報を知らせます。</p> <p>警報ボタンをタップして通知を閲覧します。</p> <p>警報にはレベルがあります：</p> <p> 情報警報：例) AccessSyncサービスによるファイルのダウンロード完了など。</p> <p> 注意警報：例) インターネット接続が切断されたため、AccessSync が一時中断された、など。</p> <p> 警告：例) ライセンスの有効期限切れにより、アプリケーションの使用が不可能になってしまった、など</p> <p> は、何も通知がないことを示します。</p>
9	ヘルプボタン	タップすると、搭載されているヘルプファイルを開きます。
10	終了ボタン	<p>Trimble Access メニューからタップして、全てのTrimble Access アプリケーションを閉じます。</p> <p>他のアプリケーションでは、このボタンをタップすると現在使用中のアプリケーションのみ閉じます。</p>

現場でTrimble Accessにログインする

システムが初めて実行された時、データが保存されるディレクトリを定義するために全てのユーザはTrimble Access ソフトウェアに必ずログインしてください。全てのTrimble Accessファイルは、¥Trimble Data¥<username>に保存されます。

ログインすると：

- 同じコントローラを使用する他のユーザとファイルの分割、識別ができます。
- 特定の現場作業員と団体の間のデータ管理が容易になる。

AccessSyncサービスによりログインが必要となる理由：

- 現場からサービスへのアクセス認証するため。
- 現場にある任意のコントローラやクラウドにある任意のロケーションへファイルが正しく転送されるようにします。
- どのコントローラからでも現場プロジェクトデータにアクセスできるようにするため。

Trimble Access ソフトウェアへのログイン

1. Trimble Access メニューから、「ログイン」をタップし、「ログインモード」を選択します。

ログインモード	使用する機会	機能
オフライン	インターネット接続がない場合	データの保存先となるディレクトリを定義します。全ての Trimble Access ファイルは、 [¥Trimble Data¥<username>] に保存されます。 または AccessSync など、オンラインサービスを購入していない場合。
Trimble Connect	Trimble Connect のアカウントがある場合。 かつ 現在、インターネット接続が利用できる場合	<ul style="list-style-type: none"> データの保存先となるディレクトリを定義します。全ての Trimble Access ファイルは、 [¥Trimble Data¥<username>] に保存されます。<username> フォルダは、Trimble Connect にサインインする際に使用されるメールアドレスの最初の部分、すなわち@の前の部分です。 ユーザが現場からサービスにアクセスする資格があるか認証します。 現場にある任意のコントローラやクラウドにある任意のロケーションへファイルが正しく転送されるようにします。
TCC	Trimble Connected Community に組織用の設定がある場合。 かつ 現在、インターネット接続が利用できる場合	<ul style="list-style-type: none"> データの保存先となるディレクトリを定義します。全ての Trimble Access ファイルは、 ¥Trimble Data¥<username> に保存されます。 ユーザが現場からサービスにアクセスする資格があるか認証します。 現場にある任意のコントローラや団体、サイト、オフィス内のフォルダロケーションなどへ正しくファイルを転送されるようにします。

2. 詳細を入力して、以下のいずれかを実行します：
 - オフラインでログインしていて、AccessSync などのオンラインサービスを購入していない場合は、任意のユーザー名でログインできます。これは単にユーザーのデータフォルダ名を定義するだけなので、パスワードは不要です。
「次へ」をタップします。
ユーザ設定をレビューして「完了」をタップします。

- オフラインでログインしている場合で、後でAccessSyncなどのオンラインサービスを使ってオンラインにする場合は、AccessSyncユーザ名（メンバーID）を入力します。パスワードは不要です。

ユーザ名は、データフォルダを設定するのに使用される他、オンラインサービスを使用する際の認証に使用されます。

「次へ」をタップします。

前回オンラインでログインしていた場合は、データ転送に利用できるTrimble ConnectプロジェクトまたはTrimble Connected Communityサイトのリストが表示されます。現場を選択して「次へ」をタップします。次回にインターネット接続を取得した際、再度ログインしなくてもファイルを転送できます。

前回オンラインでログインしていなかった場合は、ユーザ設定をレビューすることができます。その後「完了」をタップします。

- Trimble Connectにオンラインでログインしている場合、Trimble Connectユーザ名（メールアドレス）とパスワードを入力しなければなりません。これらユーザ詳細は、データフォルダのセットアップ **および** 認証に使用されます。

「次へ」をタップします。Trimble Access ソフトウェアは、Trimble ホストサーバに接続してユーザログイン詳細を認証するために、インターネット接続を使用します。認証が済むと、Trimble Access ソフトウェアは、使用可能なTrimble Connect現場のリストを取得します。これにより、AccessSyncサービス経由でファイルを同期できます。

ドロップダウンリストからTrimble Connectプロジェクトを選択します。このプロジェクトがAccessSyncサービスを使用してファイルの送受信に使用されます。

「次へ」をタップします。

ログイン設定をレビューしたら、「完了」をタップします。

- オンラインでログインしている場合、Trimble Connected Communityユーザ名（メンバーID）とパスワードを入力しなければなりません。Trimble Connected Community組織の「略称」を入力するか、リストから選択します。これらユーザ詳細は、データフォルダのセットアップ **および** 認証に使用されます。

「次へ」をタップします。Trimble Access ソフトウェアは、Trimble ホストサーバに接続してユーザログイン詳細を認証するために、インターネット接続を使用します。認証が済むと、Trimble Access ソフトウェアは、使用可能なTrimble Connected Community現場のリストを取得します。これにより、AccessSyncサービス経由でファイルを同期できます。

ドロップダウンリストからTrimble Connected Communityサイトを選択します。このサイトがAccessSyncサービスを使用してファイルの送受信に使用されます。

「次へ」をタップします。

ログイン設定をレビューしたら、「完了」をタップします。

メモ -

- AccessSyncサービスは、現在のTrimble ConnectプロジェクトまたはTrimble Connected Communityサイトに常に最新のデータを同期します。もしこのプロジェクトまたはサ

イトが間違っていると、データは間違ったロケーションに転送されてしまいます。

- このリストは、アクセスしている団体のTrimble ConnectプロジェクトまたはTrimble Connected Communityサイトのみを表示しています。さらに詳しい情報は、プロジェクトをチームメンバーと共有するまたはサイトアクセス許可を編集するを参照してください。
- コントローラに正しいデータセットがあることを確認してください。間違っているとログインが失敗する恐れがあります。
- ユーザ名を削除するには「削除」をタップします。関連するデータフォルダは削除されません。このフォルダを削除したい場合は、「ファイル」アプリケーションを使って手動で削除することができます。

コントローラから他のユーザ名でログインする

1. Trimble Access メニューにあるログインボタンをタップします。
2. 新しいユーザ名とパスワードでログインします。

メモ -

- 現在使用中のユーザ名はTrimble Access メニューのログインボタンに表示されます。
- ユーザを切り替えた時にデータが正しい場所に保存されるようにするには、専門アプリケーションを再起動してください。

現場でアプリケーションやサービスを切り替える

一度に一つ以上のアプリケーションを実行するには、画面の左上隅にあるTrimbleボタン、またはTrimbleアイコンを使用して、Trimble Access メニューを開き、そこから他のアプリケーションを実行します。

アプリケーション間を切替えるには：

- タスクバーにあるTrimble ボタンをタップし、Trimble Access メニューなどの使用可能なアプリケーションのメニューや現在実行中のサービスにアクセスします。切り替えたいアプリケーションまたはサービスを選択します。
- 「切替先」をタップして、リストにある必要な機能を選択します。もし「切替先」ボタンが画面上にない場合は、**CTRL W** を押して、「切替先」ポップアップ・リストを開きます。
- **CTRL TAB** を押します。現在の機能切替先リストをスクロールするショートカットキーです。

より詳しい情報は 一般測量ボタン をご参照ください。

アイコン配置を変える

Trimble Access起動ツールに表示されるアプリケーション アイコンの配置を変えることができます。行なうには次のようにします：

1. タスクバーの左上にあるTrimbleボタンをタップします。
2. アイコン配置の変更 を選択します。
3. アプリケーション名をタップして任意のアイコンを選択し、アプリケーション名の右側に表示される方向ボタンを使用して移動させます。

全画面

初期設定でTrimble Accessアプリケーションが全画面モードで実行されていないコントローラであっても、ソフトウェアを全画面で実行するよう設定できる場合があります。このオプションが使用できるかどうかは、コントローラの画面の大きさと、オペレーティングシステム設定で構成されたDPI設定に依存します。Trimble Accessで全画面モードを設定するには：

1. タスクバーの左上にあるTrimbleボタンをタップします。
2. 全画面 を選択します。
3. Trimble Accessソフトウェアをいったん閉じてから、再起動し、 変更内容を反映させます。

測定の設定

Trimble Access メニューの設定を利用して、複数のプログラムで使用されている共通設定を行ないます。

言語メニューで以下を実行できます。

- 言語 の変更
- サウンドイベント のオン・オフを切替
- Trimbleキーボードのスイッチオンまたはオフ（他社製Windowsコンピュータのみ対応）。

言語

一般測定 ソフトウェアの言語を変更するには、

1. コントローラに言語ファイルを転送します。
2. Trimble Access メニューから、「設定 / 言語」をタップします。
3. 一覧から必要な言語を選びます。
4. 一般測定 ソフトウェアを再起動します。

鉄道の測定時に以下の鉄道に特有の用語を使用するには、**鉄道用語の使用オプション**を選択します：

- スtringを基準にして位置を測定する際、またはString上のステーションの杭打ち時に進むの代わりにスルーを使用する場合。
- 鉛直距離 の代わりにリフト

チェイネージ距離用語にチェイネージを使用するオプションを選択すると、道路やトンネルの距離を表すのに ステーションの代わりにチェイネージを使用することができます。

キーボード

このフィールドは、Trimble Access ソフトウェアを実行しているタブレット コントローラにのみ適用されます。

Trimble Accessの使用時に使うキーボードを選択します。Trimbleキーボードまたはオペレーティングシステムのキーボードをご使用になれます。

インターネット設定

インターネット・セットアップ・ウィザードを使用した接続の設定

インターネット接続設定は「インターネットセットアップ」の中で管理されます。Trimble Accessの中で「インターネットセットアップ」にまで行くには、以下のうちから1つを行います：

- Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。
- 「設定 / 接続 / インターネット設定」をタップします。

インターネット・セットアップ・ウィザードにより、コントローラ上でインターネット接続を簡単に設定できます。インターネット接続が設定されれば、インターネット・セットアップを使用してインターネットへの接続と切断を素早く行なうことができます。さらにこの接続を利用してTrimble Connected Communityにオンラインでログインできます。その後以下のセグメント化されたアプリケーションを実行します：

- Trimble Access AccessSync
- Trimble Access 一般測量
- Trimble Access 道路
- Trimble Access トンネル
- Trimble Access 採掘鉞
- Trimble Access パイプライン
- Trimble Access モニター中
- Trimble Access GNSS予想
- Trimble Access インターネット

インターネット・セットアップは、モデム/電話による接続と Wi-Fiによる接続に対応しています。

インターネットへの接続に必要な手順は、ユーザーがお使いのコントローラによって異なります。詳しい情報については、以下のセクションを参照してください：

- タブレット以外のTrimbleコントローラ上でのインターネットへの接続
- Trimble Tablet上でのインターネットへの接続

タブレット以外のTrimbleコントローラ上でのインターネットへの接続

TSC3 / Slate / Geo7X / GeoXR上でインターネットへの接続を行うには、コントローラの内蔵モデムを使用してインターネット接続を作成します。または、もう1つの方法として、内蔵Wi-Fi無線を使用してインターネットに接続することができます。

Trimble CUコントローラは、内蔵セルラーモデムを備えていないので、インターネットへの接続には外部の電話またはモデムを使用する必要があります。始める前に、以下のうちのいずれかを行ないます：

- ケーブルを使用している場合、セルラーモデムのデータケーブルをコントローラのシリアルポートに接続します。
- Bluetooth無線技術を使用しているときは、Bluetoothが有効になっていて、かつセルラーモデムのペアリングと接続がされていることを確認します。

電話またはモデムに接続したら、内蔵モデムを搭載したコントローラを使用するときと同様に、[インターネット接続を作成](#)します。

CDMAネットワーク上でTrimbleのタブレット以外のコントローラを有効にするには：

米国内で統合デュアルモードモデムを搭載したGeo7X、またはTSC3コントローラをご使用されていて、かつ適切な利用契約をお持ちの場合は、それを使用してVerizon CDMAネットワークにアクセス可能です。デュアルモードモデムは、GSM/GPRSモードまたはCDMAモードで動作可能です。

全てのGeo7Xコントローラには、デュアルモードモデムが搭載されています。デュアルモードモデムの搭載されたTSC3コントローラの場合、パーツ番号の最後が-002になっています（例えばTSC3112-002）。お使いのTSC3コントローラのパーツ番号を調べるには、バッテリーを取り外し、バッテリー収納部の左側に貼付されたラベルを確認します。

電話は、CDMAネットワークにアクセスする前に「有効化」される必要があります。有効化の前に、お使いのサービスプロバイダにMEIDを提供する必要があるかもしれません。これを行う必要があるのは1回だけです。有効化を行うには、電話が登録されている必要があります。

Geo7X/TSC3コントローラに搭載されている電話を有効化するには：


1. Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。
2. *GSM/CDMA設定* をタップします。
3. CDMAモードを選択します。
4. *有効化* をタップします。

タブレット以外のTrimbleコントローラ用に、電話/モデムを使用したインターネット接続を作成または編集するには：

1. Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。
2. 「電話/モデム」を選択します。

メモ - 統合デュアルモードモデムを搭載したコントローラをお使いのときは、*GSM/CDMA設定* をタップし、ご希望のモードにモデムを切り替えます。CDMAネットワークをお使いの場合は、電話を有効化しないとお使いになれません。上記

の「CDMAネットワーク上でTrimbleコントローラを有効化するには」を参照してください。

3. 「新規 / 編集」ボタンをタップします.
4. ドロップダウンリストから、ポートを選択します。これはコントローラからセルラーモデムへの接続のタイプです。使用する接続手段によって以下を実行します。

- コントローラの内蔵モデムをお使いの場合、内蔵モデムを選択します。
ヒント - SIMカードの場合のアクセスは、TSC3コントローラ上のバッテリーを利用し、Slate / Geo7X / GeoXRコントローラの左側にあるポートを介して行われます。
- モバイルインターネットCFカードをお使いの場合、「モバイルインターネットモデム」を選択します。
- Bluetoothワイヤレス技術をお使いの場合、「Bluetooth」を選択します。
- ケーブルをお使いの場合、「COM1上のHayes Compatible」を選択します。CUコントローラをお使いの場合、「COM2上のHayes Compatible」を選択する必要があるかもしれません。

Bluetoothを選択するときは、ドロップダウンリストからBluetoothデバイスを選択します。このリストには、コントローラとペアリングされたすべてのモデムが表示されています。お使いのデバイスがリストに表示されていないときは、そのデバイスをペアリングする必要があります。詳しい情報については、Bluetoothを参照してください。

5. 使用するモデムがPIN暗証番号を必要とする場合、「このモデムは暗証番号が必要です」を選択して、暗証番号を入力して「OK」をタップします。
6. 次へをタップします。
7. 「ホームネットワークロケーション」、「サービスプロバイダ」と「プラン」の詳細を選択します。

この詳細がリストにない場合は、手動で設定することができます：

- a. 「サービスプロバイダ」をタップします。
- b. 「APN」には値を入力するか、「なし」を選択するか、または「アクセスポイント名 (APN) を選択」ウィザードを使用します。ウィザードの「ロケーション」フィールドで国を選択し、「プロバイダとプラン」を選択したら、「承認」をタップします。「APN」が更新されます。
- c. 「ダイヤルする番号」フィールドで、「*99***1#」と入力します。
「*99***1#」はモバイルインターネットの標準的なアクセスコードです。これを使って接続できない場合は、モバイルインターネットプロバイダにお問い合わせ下さい。
- d. ネットワーク接続に必要な場合は、「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。

ヒント - TSC3/Slate/Geo7X/GeoXRをご使用の場合で、内蔵モデムを選択したときは、「検出」ボタンをタップし、SIMカードによって検出されたサービスプロバイダ情報を引き出します。

8. 次へをタップします。

統合デュアルモードモデムを搭載したコントローラをお使いの場合、お使いの接続タイプに対してモデムが正しく設定されていないと、モードを切り替えるように促すプロンプトが表示されます。

9. 接続設定名を入力して、「完了」をタップします。

メモ

- すでに同じ名前の接続があった場合、既存の接続を上書きするように促されます。上書きしたくない場合は、「いいえ」をタップし他の名前で接続を保存します。
- 初期設定されているサービスプロバイダーの詳細が変更されると、新しい詳細が [userserviceproviders.xml] ファイルへと保存されます。保存先は [Program Files\Trimble\Common] です。初期設定値に戻したい場合は、コントローラからこのファイルを削除します。
- 誤ったPIN番号を3回入力してしまうと、緊急連絡以外の場合SIMカードがブロックされてしまいます。PUK(パーソナル・アンブロッキング・キー)コードの入力を求めるプロンプトが表示されます。モデムのPUKコードをご存じでない場合、モデムのSIMカードの提供会社にご連絡ください。誤ったPUKコードを10回入力してしまうと、SIMカードは無効になり使用不可能になってしまいます。この場合、カードを変更する必要があります。

タブレット以外のTrimbleコントローラ上で、電話/モデムインターネット接続を確立したり、切断したり、現在の状態を確認したりするには:

問題なく接続が保存されると、インターネットへの再接続が容易になります:

1. 「GPRS接続」 ドロップダウンリストから、予め設定されている接続を選択します。
2. Bluetoothを使用している場合、「Bluetoothを有効にする」が選択されていることを確認します。
3. 接続をタップします。

接続が確立されると、「インターネット設定」ステータスバーが「インターネット接続 接続名 が確立されました」と更新されます。「接続」ボタンも「切断」に変わります。切断するには「切断」をタップします。

接続が存在しないときは、「インターネット設定」状態バーが「インターネットに接続されていません」に変わり、「切断」ボタンが「接続」に変わります。タスクバーには、このほかインターネット接続インジケータがあります。これは、他の Trimble Access画面で見えるようになっています。

ヒント - Trimble Accessで設定済みのインターネット接続を使用するため、ウェブブラウザなど、タブレット以外のコントローラ上で他のアプリケーションを有効にするには、「プライベートネットワークへの自動接続を実行するプログラムは以下を使用して接続する」設定が TrimbleNet に設定されていることを確認してください。この設定を編集するには、Windowsのスタートメニューから、「設定 / 接続」

をタップしてから、「接続」アイコンをタップします。「高度な設定」を選択してから、「ネットワークの選択」をタップします。

メモ

- メモ - 現在のコントローラへのActive Sync接続、またはWiFi接続は、インターネット・セットアップ・ウィザードに表示されます。
- カメラへのWi-Fi接続がある場合、インターネット・セットアップ・ウィザードが誤ってWi-Fi接続が確立しました、と報告する場合があります。
- カメラへのWi-Fi接続を使用すると同時にインターネット接続も使用する場合は、まず最初にインターネット接続を作成し、それからカメラへの接続を作成してください。

TSC3 / Geo7X / GeoXRコントローラをお使いの際、Wi-Fi接続を使用してインターネット接続を作成または編集するには:

1. Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。
2. Wi-Fiを選択すると、コントローラのWi-Fiが有効になります。

メモ - コントローラのWi-Fiを無効にするには、電話 / モデム オプションを選択します。

3. Wi-Fiの設定と接続を行なうには次のいずれかを実行します:
 - TSC3コントローラ上で「スタート / 設定 / 接続 / Wi-Fi」をタップします。
 - Trimble Geo7Xコントローラ上で、Trimbleボタンをタップして、「スタートメニュー」を選択します。そして「設定/接続/ワイヤレスマネージャ」を選択します。「メニュー」をタップしてから、「Wi-Fi設定」を選択します。
 - Trimble GeoXRコントローラ上で、Trimbleボタンをタップして、「スタートメニュー」を選択します。そして「設定/接続/Wi-Fi」を選択します。

既にネットワークへの接続が設定されている場合、ネットワークの接続範囲内にコントローラがあれば、コントローラは自動的にそのネットワークに接続します。

Trimble Tablet上でのインターネットへの接続

Trimble Tabletにはデュアルモードセルラーモデムが搭載されています。CDMAネットワークをお使いの場合は、電話を有効化しないとお使いになれません。さらに詳しい情報につきましては、サポートノート「Yuma 2: Activation of CDMA/Verizon Connectivity」を www.trimble.com からご参照ください。

サードパーティ製タブレット上でインターネットに接続する具体的な方法は、インストールされたオペレーティングシステムによって異なります。下記の手順は目安程度にとどめ、詳しい情報は、お使いのタブレットに付属のドキュメンテーションを参照してください。

タブレットをインターネットに接続するには以下の方法のいずれかを使用します:

- Bluetoothワイヤレス技術を使用して接続された外付け電話またはモデム
- タブレットの内蔵セルラーモデム

• Tabletの内蔵Wi-Fi無線機

外付けの電話やモデムを使用してTrimble Tabletから新しいネットワーク接続を作成するには

メモ - Bluetoothで接続している外付けの電話やモデムを使用している場合は、新しいネットワーク接続を作成する前に、Bluetoothデバイスとペアリングしたことを確認してください。

1. Trimble Accessのメインメニューから「設定」 / 「接続」 / 「GNSSコンタクト」の順にタップします。
2. 「新規」をタップします。GNSSコンタクトの編集画面が表示されます。
3. 「ネットワーク接続」フィールドの右手にある矢印をタップします。
4. ネットワーク接続ページから「追加」をタップします。
5. ネットワーク接続の「名前」を入力します。
6. 使用する接続手段によって以下を実行します。
 - Bluetoothを使用して接続している外付けの電話やモデムの場合は、Bluetoothモデムをペアリングしたデバイスのリストから選びます。
 - タブレットの内部セルラーモデムの場合は、コントローラ内部モデムチェックボックスを選択します。
7. 「APN」には値を入力するか、「なし」を選択するか、または「アクセスポイント名 (APN) を選択」ウィザードを使用します。ウィザードの「ロケーション」フィールドで国を選択し、「プロバイダとプラン」を選択したら、「承認」をタップします。「APN」が更新されます。
8. 「ダイヤルする番号」フィールドで、「*99***1#」と入力します。「*99***1#」はモバイルインターネットの標準的なアクセスコードです。これを使って接続できない場合は、モバイルインターネットプロバイダにお問い合わせ下さい。
9. ネットワーク接続に必要な場合は、「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。
10. 「承認」をタップして新しいネットワーク接続を作成します。

メモ

- 既存のネットワーク接続の設定を表示するには、接続を反転表示し、「編集」ソフトキーをタップします。
- GNSSコンタクト外でネットワーク接続を作成するには、Trimble Accessメニューから「インターネットセットアップ」を使用するか、「設定/接続/インターネットセットアップ」を選択します。「インターネットセットアップ」は、Windowsネットワークと共有センターに直接移動します。

Trimble Tabletで使用するため、Wi-Fi接続を利用してインターネット接続を作成または編集するには:

1. Trimble Access メニューから、「インターネット設定」をタップします。
2. Windows の「ネットワークと共有センター」画面が表示されます。「新しい接続またはネットワークの設定」を選択してWi-Fi接続を作成します。詳細はWindowsヘルプをご参照ください。

ファイル転送

コントローラとオフィスコンピュータ間のファイル転送

この項では、Trimbleコントローラとオフィスコンピュータ間のデータ転送の方法を説明します。転送可能なファイルタイプの一覧や、転送のために装置を接続する方法の説明も含まれています。

メモ - 「Trimble CU」とは、Trimble CU (Model 3) コントローラも含むすべてのバージョンのTrimble CUを指しますが、Trimble CU (Model 3) コントローラと特に明記されている場合もあります。ご使用のTrimble CUがModel 3コントローラかどうか確かめるには、背面のラベルをご覧ください。

詳細については、以下を参照してください。

[Trimbleコントローラとオフィスコンピュータ間のデータ転送](#)

[TabletSyncを使用してTrimble Tabletコントローラをオフィスコンピュータに接続](#)

[USBメモリスティックを使用してTrimble Tabletコントローラとの間でファイルを送受信](#)

[Microsoft Mobile Device Centerを使用してTrimbleの非タブレット型コントローラをオフィスコンピュータに接続](#)

[Bluetooth を使用してTrimbleの非タブレットコントローラをオフィスコンピュータに接続](#)

[TSC3/Geo7X/GeoXR/SlateのWi-Fi 機能の設定](#)

[ファイル転換](#)

[Microsoftエクスプローラを使用したファイルの転送](#)

[Trimble Data Transfer\(データ転送\) ユーティリティの使用](#)

[Geodimeter \(GDM\) ジョブファイルの転送](#)

[Zeiss M5 ファイルの転送](#)

[ESRI Shapeファイルの転送](#)

[ESRI Geodatabase XMLファイルの作成](#)

[AutoCAD Land Desktopソフトウェア](#)

Trimbleコントローラとオフィスコンピューター間のデータ転送

様々なタイプのファイルをTrimbleコントローラとオフィス・コンピュータの間で転送することができます。データコレクタファイル (.dc)、特徴コードファイル、デジタル地勢モデル (DTM)、および言語ファイルなどです。

Trimbleの非タブレット型コントローラの場合は、Microsoft Windows Mobile Device Centerを使用してコントローラとオフィスコンピュータの接続を確立してから以下を使用してファイルを転送します:

- Trimbleデータ転送ユーティリティ
- Microsoft Explorer

Trimble Tabletコントローラでは、以下を使用してファイルを転送できます:

- AccessSyncを使用したTrimble Connected Communityエクスプローラ
- [Trimble TabletSync](#)
- Trimble Tabletをネットワークに追加する
 - ネットワーク/インターネット接続:
 - Wi-Fi
 - USBアダプタまたはドッキングステーションを使用したイーサネットケーブル
 - Bluetooth、USB、またはエクスプレスカードによるセルラーモデム接続
 - [USBメモリストティック](#)

TabletSyncを使用してTrimble Tabletコントローラをオフィスコンピュータに接続

TabletSyncを使用すると、Trimble TabletをTrimble Business Center yやOffice Synchronizerを搭載しているホストコンピュータに接続することができます。TabletSyncは、初めてTrimble AccessをTrimble Tabletにインストールする際にインストールされます。TabletSyncを使用するにはまず設定を行なって下さい。

メモ - 以下の手順は、Trimble TabletにインストールされたTabletSyncを初めて設定する場合の手順です。もしすでに設定が済んでおり、その設定を変更する場合は、**初めて設定を行なった後に、TabletSyncを再設定する** をご参照下さい。

TabletSyncの設定方法は以下の通りです

1. Trimble TabletでTabletSyncプログラムを開きます。The first time you open the program, the *Device Setup* dialog displays.
2. 全てのフィールドに入力します:
 - 「デバイス名」 - Trimble Tabletコンピュータ名を入力します
 - 「現場作業員名」 - このフィールドはオプションです。

- 「ホストPC上のSynchronizerルートフォルダ」 - ホストコンピュータ、またはホストコンピュータがネットワークを介してアクセス可能な別のコンピュータへのパスを全て入力します（例 C:¥Trimble Synchronizer Data）。

本デバイス用フォルダのフィールドは、前のフィールドに入力したパスとデバイスの名前のついた新しいサブフォルダを表示します（例 C:¥Trimble Synchronizer Data¥Device 01）。

メモ - Office Synchronizerを使用するにはルートフォルダのパスを指定する必要があります。

Trimble TabletにすでにインストールされているTrimble Accessプログラムが「インストールされているアプリケーション」リストに表示されます。

3. 「OK」をクリックします。

Trimble Tablet用に新しく入力された名前は、TabletSyncウィンドウの「デバイス名」フィールドに表示されます。

4. TabletSyncウィンドウで  ボタンをクリックします。

5. 「ホスト名を入力」ダイアログで、ホストコンピュータ名を入力します。なお、ホスト名は大文字小文字を区別します。

ホストコンピュータの「スタート」メニューの「コンピュータ」、または「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選択して、ホストコンピュータ名を設定することができます。

6. 「OK」をクリックします。

名前がTabletSyncウィンドウの「ホストリスト」に追加されました。これで、Trimble Tabletをホストコンピュータに接続する準備ができました。

Trimble Tabletの接続・切断

Trimble Tabletを接続したり、切断したりする前に、前節の手順に従って必ずTrimble Tablet上のTabletSyncを設定し、正しいホスト名をTabletSyncウィンドウの「ホストリスト」から選んで下さい。

Trimble Tabletの接続または切断を行なうには：

1. Trimble Business CenterやOffice Synchronizerがホストコンピュータ上で実行されていることを確認します。
2. Trimble Tabletをホストコンピュータが接続されているネットワークに接続します。
3. タブレットコンピュータのTabletSyncプログラムを開き、「ホストリスト」から適切なホストを選びます。選択されたホストコンピュータがネットワーク上で検出されると、「接続ボタン」が有効になります。
4. 「接続」ボタンをクリックします。接続が完了すると、「（ホスト名）に接続しました」というメッセージがステータスバーに表示されます。
5. Trimble Business CenterやOffice Synchronizerを使用してTrimble Tabletとホストコンピュータ間でデータを転送したり、同期したりします。
6. 終了するときは、「切断ボタン」をクリックします。

初めて設定を行なった後に、TabletSyncを再設定する

TabletSyncは、最初に行なった設定を変更し、再設定することができます。Trimble Tablet上でTabletSyncを開き、必要に応じて変更を行ないます（例えば、別のホストコンピュータ名を選ぶ、または入力する、など）。

Trimble Tabletがホストコンピュータに接続されている場合は、Office Synchronizerプログラムを使用して設定することもできます。Office Synchronizerウィンドウから「ツール / デバイスのセットアップ」を選択します。

USBメモリスティックを使用してTrimble Tabletコントローラとの間でファイルを送受信

USBメモリスティックを使用して1台のコンピュータから別のコンピュータにファイルを移すことができます。メモリスティックはフラッシュドライブとも呼ばれ、Trimble TabletのUSBポートに差し込んで使います。Trimble Accessメニューから「ファイル」をタップし、「ファイルエクスプローラ」にアクセスしてファイルをメモリスティックへ、またはメモリスティックからコピーします。

ヒント - Trimble Tabletのデータはフォルダ C:\ProgramData\Trimble\Trimble Dataに保存されています。

その他のTrimbleソフトウェアパッケージを使用してもTrimbleコントローラとのデータ転送ができます。詳細については、Trimbleオフィスソフトウェアと一緒に提供されたヘルプを参照してください。

Microsoft Mobile Device Centerを使用してTrimbleの非タブレット型コントローラをオフィスコンピュータに接続

接続を設立するには、

1. Trimbleコントローラとオフィスコンピューターに電源が入っていることを確認します。通信ポートが確実に使用できるようにするために、Trimbleコントローラと通信しているすべての装置の接続を切断し、すべてのアプリケーションを終了します。
2. Trimbleコントローラをオフィスコンピューターに接続します。以下の方法の1つを使用します。
 - シリアルケーブル
 - USBケーブル(マルチポートアダプタ使用)
 - ネットワーク(イーサネット)カード(マルチポートアダプタ使用)
 - 赤外線(コントローラがそれをサポートする場合)
 - ドッキングステーション (オフィスコンピュータにUSB接続。Trimble CU使用時のみ。)
 - Bluetooth ワイヤレス機能

オフィスコンピュータが自動的に接続し、Windows Mobile device Centerホームページが表示されます。

3. **デバイスをセットアップせずに接続する** を選択します。

Trimble Data Transfer(データ転送)を使用して一般測量ファイルを転送するには、[Trimble Data Transfer\(データ転送\) ユーティリティの使用](#) の項を参照してください。

詳細については、Microsoft Mobile Device Center のヘルプを参照してください。オフィスコンピュータからは「スタート / プログラム / Microsoft Mobile Device Center」をクリックします。

Bluetooth を使用してTrimbleの非タブレットコントローラを オフィスコンピュータに接続

Bluetoothのワイヤレス技術を使用して、Trimbleの非タブレット型コントローラとオフィスコンピュータの接続を確立すると、BluetoothとTrimbleデータ転送ユーティリティ、あるいはWindows Mobile Device Centerを使用してファイルを転送できるようになります。

接続をセットアップするには、

- [Bluetoothソフトウェアのインストールと設定](#)
- [Bluetoothが使用できるようにWindows Mobile Device Centerの設定変更](#)
- [BluetoothとWindows Mobile Device Centerを使用したTrimble CU \(Model 3\) の接続](#)
- [Windows Mobile Device CenterとBluetoothを使用したTrimble CUの接続](#)
- [Windows Mobile Device CenterとBluetoothワイヤレスを使用したTSC3/Geo7X/GeoXR/Slateコントローラの接続](#)

Bluetoothソフトウェアのインストールと設定

Bluetoothハードウェアのソフトウェアやドライバーのインストール・設定は、そのBluetooth製造者によって異なります。下記の手順は一般的なもので、多くのBluetooth装置に適用できるはずですが、

1. Bluetooth製造者の指示に従って、Bluetooth装置用のソフトウェアとドライバーをインストールします。

オフィスコンピュータがワイヤレスBluetoothを内蔵している場合には、下記の手順に従ってください。

- a. 「スタート / プログラム / ソフトウェアセットアップ」を選択します。
- b. 「Hardware Enabling Drivers」のツリー構造を広げます。そこで「Bluetooth」が選択されていることを確認し、その他の選択をすべて取り消します。
- c. 「Software Applications」のチェックボックスからチェックマークを外します。
- d. 「Next」を選択して、インストールを完了します。

外部USB Bluetooth装置(TDK Systems、またはCambridge Silicon Radio社製のDSE Bluetooth ドングルなど)をお持ちの場合には、提供されたCDと指示を参照してください。

2. インストール作業中に、Bluetooth dongleに接続するように求められるはずですが、まだそれを行っていない場合には、その時点でdongleをオフィスコンピュータに接続します。

3. ソフトウェアのインストール後に指示に従って、システムを再起動します。
4. Bluetooth装置に割り当てたCOMポートを確認します。
 - a. ソフトウェアがインストールされると、Bluetoothのアイコンがオフィスコンピュータのシステムトレイに表示されるようになります。そのBluetoothアイコンを右クリックします。
 - b. 「Advanced Configuration」を選択します。「Local Services」タブで、「Bluetooth Serial Port」(Bluetooth シリアルポート)サービスに割り当てられているCOMポートをメモしておきます。このCOMポートをWindows Mobile Device Centerと一緒に使用できるように設定する必要があります。
または、「スタート / プログラム / My Bluetooth Places」を選択してから、「My Device / My Bluetooth Serial Port / Properties」を選択します。

これでBluetooth装置がオフィスコンピュータのCOMポートであるかのように設定されました。

メモ - Bluetoothソフトウェアのインストールに管理者権を必要とすることがあります。

Bluetoothが使用できるようにWindows Mobile Device Centerの設定変更

1. コントローラとオフィスコンピュータと通信している装置すべてを切断します。
2. Windows Mobile Device Centerを起動します。オフィスコンピュータで、「スタート / プログラム / Windows Mobile Device Center」を選択します。
3. 接続方法を設定します。Windows Mobile Device Centerで「モバイルデバイス設定 / 接続の設定」を選択します。
4. 「以下のうちのいずれかへの接続を可能にする」チェックボックスにチェックマークを入れ、Bluetoothを選択します。
接続の設定は一度しか行う必要がありません。次回からは、Windows Mobile Device Centerが自動的に起動します。
5. 「OK」をクリックして、「接続の設定」ダイアログを終了します。

メモ - Windows Mobile Device Center機能などのアプリケーションをCOMポートに割り当てる方法は、コンピュータのメーカーによって異なる場合があります。

BluetoothとWindows Mobile Device Centerを使用したTrimble CU (Model 3) の接続

コントローラとオフィスコンピュータ間のBluetooth接続は、コントローラ側から開始します。

1. Trimble CU (Model 3) コントローラが Windows CEオペレーティングシステムのバージョン6.0で動作している場合、まずUSBケーブルを使用してオフィスコンピュータに接続します。
2. Bluetooth接続をオフィスコンピュータ側でセットアップします。 [Bluetoothソフトウェアのインストールと設定](#)、および [Bluetoothが使用できるようにWindows Mobile Device Centerの設定変更](#) をご参照下さい。

5 ファイル転送

3. コントローラで「Start / Settings / Control Panel / Bluetooth Device Properties」をタップします。
4. 「Power」タブをタップしてから、「Enable Bluetooth」（Bluetooth有効化）チェックボックスで有効にします。
5. 「Configuration」（設定）タブをタップして、「Do not query device services」チェックボックスにチェックマークを入れます。

近隣にある装置すべては通常のスキャンで見つけることができます。SDP Service Discovery を使用している場合、コントローラはBluetooth装置を見つけると、サポートするサービスはどれかをその装置に質問し、答えを入手します。
6. 「Scan Device」タブをタップします。
7. 使用可能なBluetooth装置すべてをスキャンするには、「Scan」をタップします。

コントローラがスキャンを終了すると、見つかったBluetoothサービスは、スクリーンの左の「Untrusted」（信頼しない）リストに表示されます。
8. オフィスコンピュータの名前がついているBluetoothデバイスを反転表示します。そのコンピュータを信頼できるデバイスにするには、画面中央の→ ボタンをタップします。
9. 承認メッセージが現れたら「Yes」をタップします。TrimbleCUとオフィスコンピュータで暗証番号を促されたら、それぞれに同じPIN番号を入力し、OKをクリックします。
10. 信頼する装置を使用可能にするには、装置名をダブルタップして、「Active」を選択します。
11. 承認過程をオフにするには、装置名をダブルタップして「Authenticate」オプションの選択を取り消します。この手順の実行は任意です。
12. 「OK」をタップして、Bluetoothマネージャを終了します。
13. コントロールパネルから、「PC Connection」（PC接続）をダブルタップします。「Connect using」（接続方法）がUSBになっていたら、「Change...」（変更）をタップして「Bluetooth」を選択します。「OK」をタップし、もう一度「OK」をタップして終了します。。
14. 「Start/Run」（スタート/起動）をタップします。「Open」（開く）フィールドで「repllog」と入力して「OK」をタップします。

コントローラがオフィスコンピュータに接続されると、Trimble データ転送やWindows Mobile Device Center を使用してファイルを転送できるようになります。

Windows Mobile Device CenterとBluetoothを使用したTrimble CUの接続

コントローラとオフィスコンピュータ間のBluetooth接続は、コントローラ側から開始します。

1. USBケーブルを使用してオフィスコンピュータとの接続を確立します。
2. Bluetoothをオフィスコンピュータ上でセットアップします。 [Bluetoothソフトウェアのインストールと設定](#)、および [Windows Mobile Device Centerを設定してBluetoothを使用する](#) をご参照ください。
3. スキャンの準備をするには:

5 ファイル転送

- コントローラで「Start / Settings / Control Panel / Bluetooth Device Properties」をタップします。
- まだBluetoothが有効になっていない場合は、「Enable Bluetooth」チェックボックスで有効にします。
- 「Configuration」タブをタップして、「Perform SDP On Scan」チェックボックスにチェックマークを入れます。

近隣にある装置すべては通常のスキャンで見つけることができます。SDP Service Discovery を使用している場合、コントローラはBluetooth装置を見つけると、サポートするサービスはどれかをその装置に質問し、答えを入手します。

4. 「Scan Device」タブをタップします。
5. 使用可能なBluetooth装置すべてをスキャンするには、「デバイスをスキャンする」をタップします。
コントローラがスキャンを終了すると、見つかったBluetoothサービスは、スクリーンの左の「Untrusted」（信頼しない）リストに表示されます。
6. オフィスコンピュータの名前がついているBluetoothデバイスを反転表示します。そのコンピュータを信頼できるデバイスにするには、画面中央の→ ボタンをタップします。
7. 承認メッセージが現れたら「Yes」をタップします。TrimbleCUとオフィスコンピュータで暗証番号を促されたら、それぞれに同じPIN番号を入力し、OKをクリックします。
8. 信頼する装置を使用可能にするには、装置名をダブルタップして、「Active」を選択します。
9. 承認過程をオフにするには、装置名をダブルタップして「Authenticate」オプションの選択を取り消します。この手順の実行は任意です。
10. 「OK」をタップして、Bluetoothマネージャを終了します。
11. コントローラをオフィスコンピュータに接続するには、「Start / Programs / Utilities / ActiveSync」をタップします。
「No Partnerships（パートナーシップ関係がありません）」というエラーメッセージが現れたら、USBを使用してコントローラとオフィスコンピュータを接続し、[パートナーシップ関係](#)を作成します。USBケーブルを外した後、手順1からもう一度繰り返します。
12. オフィスコンピュータへの接続方法を「Bluetooth」に設定します。「Connect to」（接続先）がオフィスコンピュータの名前に設定されていることを確認します。
13. 「Connect」（接続）をタップします。コントローラがオフィスコンピュータと通信を始めます。

コントローラがオフィスコンピュータに接続されると、Trimble データ転送やWindows Mobile Device Center を使用してファイルを転送できるようになります。

Windows Mobile Device CenterとBluetoothワイヤレスを使用したTSC3/Geo7X/GeoXR/Slateコントローラの接続

コントローラとオフィスコンピュータ間のBluetooth接続は、コントローラ側から開始します。

1. Bluetoothをオフィスコンピュータ上でセットアップします。 [Bluetoothソフトウェアのインストールと設定](#)、および [Windows Mobile Device Centerを設定してBluetoothを使用する](#) をご参照ください。
2. スキャンを実行するには:
 - Trimble Slate コントローラ/TSC3コントローラで:
 - a. Windowsのスタートボタンを押してスタートメニューにアクセスし、「Setting (設定) / Settings / Bluetooth」 をタップします。
 - b. 「Mode (モード)」 タブをタップして、「Turn on Bluetooth (Bluetoothをオンにする)」 チェックボックスにチェックマークを入れます。
 - c. 使用可能なBluetooth装置すべてをスキャンするには、「Devices (装置)」 タブで「Add new device (新しい装置の追加)」 をタップします。
 - Geo7X/GeoXRコントローラで:
 - a. Trimbleボタンを押してスタートメニューにアクセスし、「Settings / Bluetooth」 をタップします。
 - b. 「Mode (モード)」 タブをタップして、「Turn on Bluetooth (Bluetoothをオンにする)」 チェックボックスにチェックマークを入れます。
 - c. 使用可能なBluetooth装置すべてをスキャンするには、「Devices (装置)」 タブで「Add new device (新しい装置の追加)」 をタップします。

コントローラがスキャンを終了すると、見つかったBluetoothサービスが表示されません。

3. 使用中のオフィスコンピュータの名前を伴うBluetooth装置を反転表示して「Next」をタップします。
4. 承認メッセージが現れたら、パスキーを入力してオフィスコンピュータとの安全な接続を確立します。「次へ」 をタップします。オフィスコンピュータに促されたら、同じパスキーを入力してOKをクリックします。
5. オフィスコンピュータの名前を長押ししてから「Connection」 を選択します。
6. 「OK」 をタップして、Bluetoothマネージャを終了します。
7. Windows Mobile Device Centerが起動します。「Connect without setting up a device」 をタップします。

コントローラがオフィスコンピュータに接続すると、Trimble データ転送やWindows Mobile Device Center を使用してファイルを転送できるようになります。

ヒント - または、オフィスコンピュータにコントロールを接続するには、「Start / Programs / ActiveSync」 をタップします。「Menu」、そして「Connect via Bluetooth」 をタップします。

TSC3/Geo7X/GeoXR/SlateのWi-Fi 機能の設定

以下の手順は、Wi-Fi ワイヤレスネットワークがオフィス内に既にセットアップされていると仮定したものです。

ワイヤレス暗号化プロトコル(WEP)ネットワークキーなどに関してはネットワーク管理者に問い合わせてください。

1. Wi-Fi 無線機がオンになっていることを確認します。
 - Trimble Slate コントローラ/TSC3コントローラで：
 - a. Windowsのスタートボタンを押してスタートメニューにアクセスし、「Settings (設定) / Connections (接続) / Wi-Fi - Menu」をタップします。
 - b. 無線機をオンにするには、「Turn On Wi-Fi」をタップします。メニューオプションが「Turn Off Wi-Fi」を表示している場合、それは無線機が既にオンになっていることを意味します。
 - Geo7X/GeoXRコントローラで：
 - a. Trimbleボタンを押してスタートメニューをタップしてから、「Settings / Connections / Wi-Fi Manager」をタップします。
 - b. 無線機をオンにするには、「Wi-Fi」ボタンをタップし、「Available」を表示するようにします。メニューオプションが「Off」を表示している場合、それは無線機が既にオンになっていることを意味します。
2. ワイヤレスネットワークでWEPがオンになっていると、「Network Key」(ネットワークキー)の入力を求められます。このキーに関しては、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
3. ワイヤレスネットワークに接続すると、ネットワークへのログイン情報(ユーザー名やパスワード、ドメインなど)を求められることがあります。ネットワークに接続するときと同じ情報をここで入力してください。
4. ワイヤレスネットワークに接続できるけれども、ネットワークリソースにアクセスできない場合、接続に関する一般的な情報に関しては「Advanced / Network Troubleshooting」をご参照ください。それより高度な情報が必要な場合には「More Info」を選択してください。

これでコントローラがネットワークに接続できるようになりました。

メモ - Trimbleの非タブレット型コントローラは、Wi-Fi およびWindows Mobile Device Centerを使用するファイル転送に対応していません。

ファイル転換

一般測量ソフトウェアとの間でデータが転送される時、Trimbleソフトウェアで使用できるように転換されるファイルもあります。

下の表は、一般測量ソフトウェアで使用されるファイルと、Trimbleオフィスソフトウェアとの間で転送する時に転換されるファイルタイプを列記しています。

PC	コントローラ	説明	データ転送	MSエクスプローラ / Mobile Device Center
.dc	.job	一般測量ジョブファイル	可	不可
.csv	.csv	カンマ区切り (CSV) ファイル	可	可
.txt	.txt	カンマ区切り (TXT) ファイル	可	可
.dtx	.dtm	デジタル地勢モデル ファイル	可	不可
.ttm	.ttm	三角地勢モデル ファイル	可	可
.fcl	.fal	特徴ライブラリ ファイル (TGO)	可	不可
.fxl	.fxl	特徴ライブラリ ファイル (TBC)	Y	Y
.ddf	.fal	データ辞書 ファイル	可	不可
.ggf	.ggf	ジオイドグリッド ファイル	可	可
.cdg	.cdg	結合測地グリッド ファイル	可	可
.pjpg	.pjpg	投影グリッドファイル	可	不可
.sgf	.sgf	シフトグリッドファイル	可	不可
.pgf	.pgf	UK National Grid ファイル	可	可
.dxf	.dxf	マップ ファイル	可	可
.str	.str	Surpacファイル	可	可
.shp	.shp	ESRI マップ・シェイプ・ファイル	可	可
.ini	.dat	アンテナファイル	可	不可
.lng	.lng	言語ファイル	可	可
.wav	.wav	サウンドファイル	可	可
.sty	.sty	測量スタイルファイル	N	Y
.xml	.xml	GNSS問合せ先とサービスプロバイダファイル	Y	Y
.dat	.dat	GNSSデータファイル	可	可
.t02 .dat	.t02	GNSSデータファイル	可 (TGO 用.dat)	可 (TBC用.t02)
.crd .inp .mos	.crd .inp .mos	GENIO道路ファイル	可	可
.xml	.xml	LandXML道路ファイルや XML文書	可	可
.jxl	.jxl	JobXMLファイル	可	可
.ixl	.ixl	カスタムASCIIインポートファイル定義	不可	可
.xsl	.xsl	XSLTカスタムASCIIエクスポート	可	可

PC	コントローラ	説明	データ転送	MSエクスプローラ / Mobile Device Center
		スタイルシートファイル		
.sss	.sss	XSLTカスタム杭打ちスタイルシートファイル	可	可
.mcd	.mcd	「コード測定」データベースファイル	不可	可
.dc	.rxl	Trimble 道路ファイル	Y	N
.rxl	.rxl	線形ファイル	Y	Y
.txl	.txl	トンネルファイル	Y	Y
.csd .csw	.csd	座標系データベース・ファイル	Y	N
.jpg	.jpg	画像ファイル	Y	Y
.tsf	.tsf	スキャンファイル	Y	Y

「不可」の場合には、「データ転送」を使用してファイルを変換してください。

Trimble Business Centerソフトウェアに.dcファイルが転送されると、そのファイルに関連する全てのGNSSデータファイルも転送されます。.dcファイルフォーマットに関する情報はトリムブル社のウェブサイト(www.trimble.com)から入手できます。更に詳しい情報には、お近くのTrimble製品取扱店にお問い合わせください。

メモ - Trimble Business Centerプロジェクトがジオイドモデルを使用する場合には、ジョブと一緒にジオイドファイル(またはそのサブグリッド部分)も一般測量ソフトウェアに転送することを忘れないでください。

Microsoftエクスプローラを使用したファイルの転送

Microsoft ExplorerとWindows Mobile Device Centerを使用し、Data Transfer (データ転送)による **変換** を必要としないファイルをTrimbleコントローラとの間で移動またはコピーすることができます。

にファイルを転送するには、一般測量その前にWindows Mobile Device Centerを使用してコントローラをオフィスコンピュータに接続する必要があります。詳細については、[Microsoft Mobile Device Centerを使用してTrimbleの非タブレット型コントローラをオフィスコンピュータに接続](#)。

接続後、Windows Mobile Device Center のウィンドウから、

1. 「Connect without setting up your device」をクリックし、オフィスコンピューターとTrimbleコントローラ間でファイルを移動・コピーし、情報を共有します。または、Windowsエクスプローラを使用して、ファイルを移動・コピーします。
2. 「Setup your device」をクリックして、パートナーシップ関係をセットアップし、コンテンツを同期します。

Windows Mobile Device Center ソフトウェアを使用するファイルの転送に関する更に詳しい情報には、Windows Mobile Device Centerのヘルプを参照してください。

Trimble Data Transfer (データ転送) ユーティリティの使用

Trimble Data Transfer (データ転送) ユーティリティを使用して、一般測量とオフィスコンピュータ間でファイルを転送できます。

1. 一般測量にファイルを転送するには、Windows Mobile Device Centerを使用してコントローラをオフィスコンピュータに接続する必要があります。詳細については、[Windows Mobile Device Center](#)を使用してコントローラをオフィスコンピュータに接続をご参照下さい。
2. オフィスコンピュータで Data Transfer ユーティリティを起動します。
3. データ転送のデバイス設定が正しいかどうか確認してから、**接続**ボタンを押して接続します。初期設定のデバイスが正しく設定されていれば接続プロセスは自動的に実行されます。
4. 「受信」または「送信」のどちらか適切なタブを選択します。
5. 「追加」を選択します。
6. 「開く」ダイアログで、ファイルタイプに適切なオプションを設定して、転送するファイルを選択します。
7. 「すべて転送」を選択して、ファイル転送を開始します。

Data Transfer (データ転送) に関する更に詳しい情報には、Data Transfer ヘルプを参照してください。

Geodimeter (GDM) ジョブファイルの転送

コントローラで、またはASCII File Generatorを使用するコンピュータでGDMジョブを作成するには、カスタムASCIIファイルの作成を参照してください。カスタムASCIIファイルは、新しいフォーマットの生成に、変更可能なXSLT スタイルシートを使用します。

GDM . ジョブファイルをTrimbleコントローラからオフィスコンピュータに転送するには、[上記](#)の説明の通りにデータ転送ユーティリティを使用します。開くダイアログが表示されたらGDMジョブファイルをファイルのタイプリストから選択します。

このオプションを使用して転送されたGDM ジョブファイルは、Trimble コントローラで収集された一般測量データを含みます。

メモ - Trimble コントローラから Geodimeter ジョブファイル (例、test. job) を転送すると、ソフトウェアは2つのファイルを生成します。

- test. job (一般測量ジョブファイルのバックアップ)
- testGDM. job (実際の GDM . job ファイル)

GDM ジョブファイル作成時の特別機能

一般測量でポイントに対するいくつかのユーザーデータ項目を収集してから、標準ユーザーレベル項目としてGDMジョブファイルにそのポイントの属性を出力できるようにすると、以下の機能がサポートされます。

GDMジョブファイルが一般測量データから作成されている間に、ポイントの属性が以下のように処理されます。ポイント属性に90から99まで (定義可能なGDMラベル) の名前をつけ、属性に値を割り当てた場合、これらの属性は自動的にラベル90=から 99=まで出力されます。同様に、ポイント属性に4という名前がついており、値が割り当てられていた

ら、ポイントにもともと割り当てられていたコードではなく、ラベルが4=のポイントコードとして出力されます。

メモ - この機能を使用できるようにするには、適切な名前(例、4 や 90~99)の属性を持つ特徴を定義する特徴ライブラリを作成する必要があります。この特徴ライブラリを一般測量に転送して、それを一般測量 ジョブに対して指定する必要もあります。特徴ライブラリのサンプル見本は www.trimble.com でご利用になれます。

Zeiss M5 ファイルの転送

コントローラで、またはASCII File Generatorを使用するコンピュータでZeiss M5ファイルを作成するには、「カスタムフォーマットのエクスポート」を参照してください。「カスタムフォーマットのエクスポート」を使用して作成したM5座標ファイルから、3300・3600設定マークを使用してファイルを作成できます。「カスタムフォーマットのエクスポート」は、修正可能なXSLT スタイルシートを使用して、新しいフォーマットを生成します。

Zeiss M5ファイルをTrimbleコントローラからオフィスコンピュータに転送するには、[上記](#)の説明の通りにデータ転送ユーティリティを使用します。開くダイアログが表示されたら、M5ファイルをファイルのタイプリストから選択します。

このオプションを使用して転送されたM5ファイルは、コントローラが収集した一般測量データを含みます。M5ファイルは観測したポイントに対する座標も含みます。

ESRI Shapeファイルの転送

コントローラでESRI Shapeファイルを作成するには、「ESRI Shapeファイルのエクスポート」を参照してください。

ESRI Shapefilesを作成し、Trimbleコントローラからオフィスコンピュータに転送するには、[上記](#)の説明の通りにデータ転送ユーティリティを使用します。開くダイアログが表示されたら、ファイルのタイプからESRI Shapeファイルを選択し、グリッド座標（北距、東距、高度）や緯度・経度座標（ローカル緯度、経度、高度）が必要かどうかを指定し、転送先のフォルダを選択します。

Shapeファイルと、ファイル名属性を使用してリンクしている全てのファイルが指定されたフォルダに転送されます。ジョブの中の属性情報を含むすべての特徴コードに、.shp、.shx、.dbfファイルが作成されます。ファイルは「<ジョブ名>スペース<特徴コード名>」と命名されます。特徴コードを持たないポイントは、「<ジョブ名>.shp」、<ジョブ名>.shx および「<ジョブ名>.dbf」ファイルに保存されます。

ESRI Shapeファイル内でファイルリンクを維持する方法

一般測量では、ファイル属性フィールドを使用して画像や他の種類のファイルをポイントにリンクさせることができます。この情報をパスとともにファイルに入力することができます。一般測量内から画像をレビューすることができます。さらに、このパスによってデータ転送ユーティリティがリンクファイルを特定のフォルダへ転送することができます。

一般測量ジョブファイルがESRI Shapeファイルに変換されたとき、パスはフィールドから取り除かれてファイル名だけが残ります。ファイル属性にアクセスするには、ESRI ArcMapソフトウェアから[Hyperlink]ツールを使用します:

- [ArcMap document (*.mxd)]を属性フィールドで参照されたファイルと同じ場所に保存します。Use the [Identify tool]を使用してポイントと属性を選択します。ファイル

属性フィールドを選択し、ハイパーリンクを有効にしてファイルを開きます。

- またはESRI ArcMapソフトウェアで、ファイル属性のある[Layer]を右クリックし、[Properties]を選択します。[Display]タブで、[Support Hyperlinks using field]チェックボックスが選択されていることを確認し、ドロップダウン・ダイアログから適切なフィールドを選びます。[File]メニューで[Document Properties]を選び、[Hyperlink Base]フィールドへパスを入力します。[Hyperlink tool]をクリックし、ファイル属性のあるポイントを選んでハイパーリンクを有効にし、ファイルを開きます。

ESRI GeoDatabase XMLファイルの作成と転送

To create and transfer ESRI Geodatabase XMLファイルを作成し、Trimbleコントローラから転送するには、[above上記](#)の説明の通りにデータ転送ユーティリティを使用します。開くダイアログが表示されたら、ESRI GeoDatabase XMLファイルをファイルのタイプ list リストから選択し、転送先フォルダを選択します。

Geodatabase XMLファイル (*.xml) と、ファイル名属性を使用してリンクしている全てのファイルが指定されたフォルダに転送されます。各特徴コードにつき1つのレイヤが一般測量ジョブ内に作成されます。

ESRI GeoDatabase XMLファイル内でファイルリンクを維持する

一般測量では、ファイル属性フィールドを使用して画像や他の種類のファイルをポイントにリンクさせることができます。この情報をパスとともにファイルに入力することができます。一般測量内から画像をレビューすることができます。さらに、このパスによってデータ転送ユーティリティがリンクファイルを特定のフォルダへ転送することができます。

一般測量ジョブファイルがESRI GeoDatabase XMLファイルに変換されたとき、「転送先」パスはXMLファイルに残ります。XMLファイルがGeoDatabaseにインポートされるとき、[Hyperlink]ツールはこのパスを使用して属性ファイルへリンクします。ファイルが動かされるとArcGIS内のリンクルーツは作動しなくなります。

AutoCAD Civil 3DとLand Desktopソフトウェア

Trimble Link ソフトウェアを使用すると、一般測量ソフトウェアとAutoCAD Civil 3DとLand Desktopソフトウェア間でデータを転送できます。